地震について

■ 想定される地震について…震度と被害想定

震度1 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。

震度2 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。

震度3 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が、目を覚ます。棚にある食器類が音を立てることがある。

震度4 ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。

震度5弱 大半の人が、物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。

震度5強 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

震度6弱 立っていることが困難になる。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。

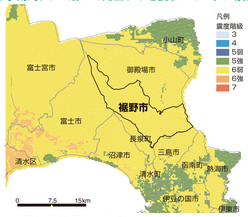
震度6強 立っていることができず、はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。

震度7 揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。

■ 裾野市推定震度分布図

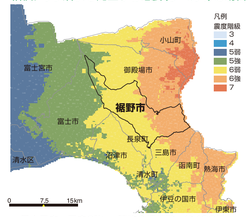
下記に示す震度分布は、静岡県第4次地震被害想定で発表されました。
地震の発生場所や規模により裾野市の震度は変化します。

駿河・南海トラフ沿いで発生する地震（レベル1）の場合



最大震度　震度6弱
死者数　5人未満
建物全壊棟数　約100棟
避難者数（1週間後）4,433人

相模トラフ沿いで発生する地震（レベル1）の場合



最大震度　震度6強
死者数　5人未満
建物全壊棟数　約400棟
避難者数（1週間後）5,064人

各種補助制度

裾野市では、住宅や建築物の耐震化を促進するため、さまざまな補助制度を用意しております。

①わが家の専門家診断事業　まちづくり課
昭和56年5月以前に建てられた木造住宅は、専門家による無料の耐震診断が受けられます。

②木造住宅耐震補強助成事業（補強計画一体型）　まちづくり課
昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震補強計画を作成し、耐震補強工事を実施する経費に対して、100万円（高齢者等世帯は120万円）を補助します。（ただし工事費の8割を限度）

③ブロック塀等耐震改修促進事業　まちづくり課
地震発生時に倒壊のおそれのある危険なブロック塀等の撤去事業、撤去を伴う設置事業について費用の一部を補助します。

④がけ地近接等危険住宅移転事業　まちづくり課
土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）内に建っている住宅を除却し、安全な場所に移転する場合に、「除却費用」および「移転先住宅を取得するため金融機関等から借入した場合の利子」の一部を補助します。

⑤家具等転倒防止推進事業　危機管理課
地震発生時における家具の転倒による事故防止、被害の軽減のため家具の固定をお願いいたします。高齢者のみ世帯など対象となる世帯に、5品までの家具固定器具の取り付け費用（上限あり）を補助します。

洪水について

■ 浸水想定区域

浸水想定区域は、次の2種類の氾濫が起こった場合の浸水区域を示しています。

外水氾濫

河川の水位が上昇し、堤防から水があふれ住宅などが浸水します。

内水氾濫

一時的に排水施設の処理能力を超える場合や、河川の水位上昇に伴って雨水を排水できない場合に建物、道路などが冠水します。

■ 水位と避難に関する情報

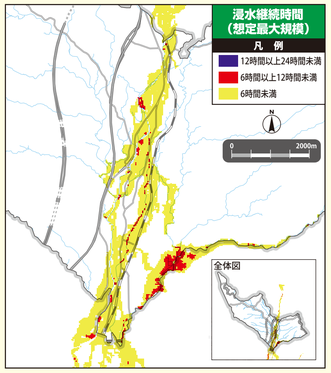
下表の観測所では、常時水位観測が行われており、この地点において以下の各水位に達した場合には、市から避難等に関する情報が発表されます。

河川名	観測所名	水防団待機水位（通報水位）	はん濫注意水位（警戒水位）	はん濫危険水位
黄瀬川	花園橋観測所	2.30m	2.80m	3.10m
大場川	青木橋観測所	2.80m	3.20m	3.40m
（参考）佐野川	寿橋観測所	2.75m	4.20m	-

■ 浸水継続時間（想定最大規模）

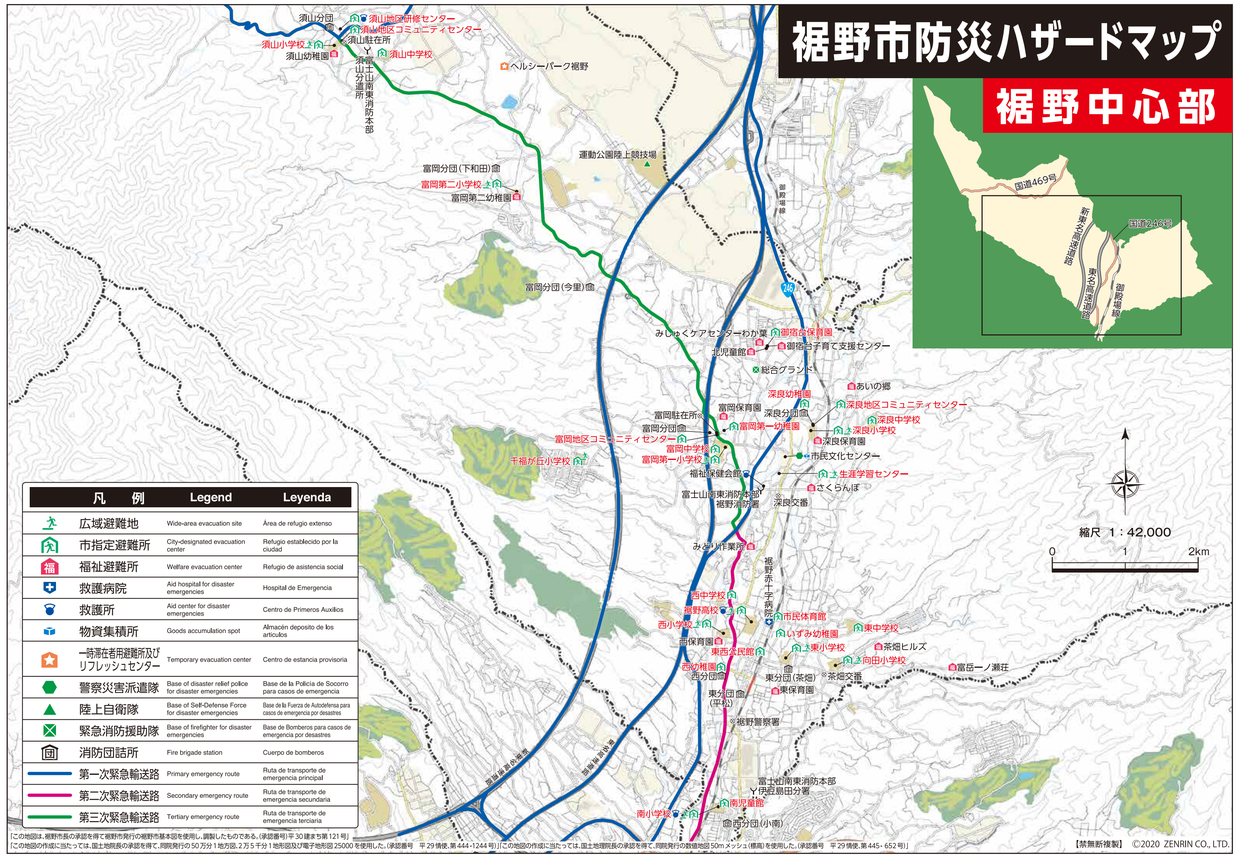
浸水継続時間（想定最大規模）とは、浸水深が 50cm になってから最終的に 50cm を下回るまでの通算時間です。浸水継続時間が長期にわたると想定される地域では、立退き避難せず自宅の 2 階などに待避した場合の問題として特に以下の点に注意してください。

- 浸水深が深い場合には、家から外に出られない。
- 備蓄していても水や食料等がなくなる。
- 衛生環境が悪化する。
- 病人が出た場合に対応が難しい。
- 定期的な診療を受けている人は診療を受けられない。



裾野市防災ハザードマップ

裾野中心部



この地図は、裾野市長の承認を得て裾野市発行の裾野市基本図を使用し、調製したものである。（承認番号）平30建まち第121号）
この地図の作成に当たっては、国土地院長の承認を得て、同院発行の50万分1地方図、2万5千分1地形図及び電子地形図25000を使用した。（承認番号　平29情使、第444-1244号）この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ（標高）を使用した。（承認番号　平29情使、第445-652号）
【禁無断複製】　©2020 ZENRIN CO., LTD.

土砂災害について

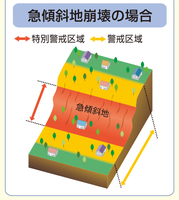
■ 土砂災害警戒区域とは

土砂災害警戒区域等は、土砂災害（急傾斜地の崩壊・土石流・地すべり）のおそれのある区域について危険の周知、警戒避難体制の整備等のソフト対策を推進するために指定されます。
静岡県では土砂災害のおそれのある区域について「土砂災害警戒区域」と「土砂災害特別警戒区域」の指定、公表を行っています。

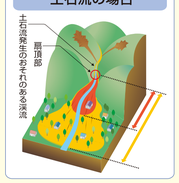
土砂災害警戒区域
急傾斜地崩壊や土石流、地すべりが発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険区域の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域
急傾斜地崩壊や土石流、地すべりが発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、特定の開発行為に対する許可制や、建築物の構造規制等が行われます。

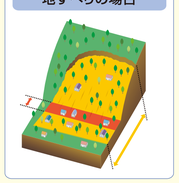
急傾斜地崩壊の場合



土石流の場合



地すべりの場合



■ 土砂災害の種類

台風、大雨時には、土砂災害についての注意が必要です。土砂災害には、前兆現象が見られる場合があります。大雨の際には、特に前兆現象に注意し、早期避難にこころがけましょう。もちろん、これらの前兆現象が見られない場合でも、降雨の状況によって不安を感じる場合は、自主避難を行いましょう。

がけ崩れとは?（急傾斜地崩壊）

強い雨に打たれること等により、斜面が突然崩れ落ちるのが、がけ崩れです。

- がけから小石が「ぱらぱら」落ちてくる
- がけに割れ目ができている
- いつもは出ていないが、がけから水が湧き出ている
- がけから出ている水が濁っている
- がけから音がしている

土石流とは?

集中豪雨等により水を含んだ大量の土石・砂が、一瞬のうちに谷沿いに津波のように流れ出るのが、土石流です。

- 川の水が急激に減っていく
- 川に流木が流れていく
- 川に石が流れていく音がする
- 川の水が異常に濁っている
- 「ゴー」というような地鳴りがする

地すべりとは?

粘土質など滑りやすい土質を境に、その上部の地面が動き出し、斜面の一部がゆっくりと滑り落ちるのが、地すべりです。

- 地面にひび割れができている
- 地面に凹凸ができている
- 沢や井戸の水が濁っている
- 斜面や斜面の下部から水が湧き出ている
- 扉が閉まりづらい

水害シナリオ

■ この地図の浸水深の前提となる条件

◆この地図は、狩野川水系黄瀬川・大場川の水位周知区間について、水防法の規定により指定された**想定し得る最大規模の降雨**による洪水浸水区域、浸水した場合に想定される水深を表示しています。
◆この地図における浸水想定は、平成31年3月29日時点における黄瀬川・大場川の川の整備状況で作成されています。このため、今後河川改修などが行われた場合にはこの想定が変わることがあります。
◆また、**黄瀬川・大場川からの洪水はん濫による想定のみであることから、これ以外の河川からの洪水はん濫や農業水路、下水および低地に溜まる内水などは考慮されていません。このため、着色の無い箇所が安全であることを示すものではありません。**
◆**浸水想定の雨量は概ね1,000年に1回程度起こる大雨が降った場合を想定しています。この際の48時間の総雨量は黄瀬川流域で852mm、大場川流域で844mmです。**

災害への備え

■ 日頃からの備え

安全な避難路の確認を

避難場所までの経路（避難路）は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。

正確な情報収集と自主的避難を

防災行政無線やラジオ・テレビで伝達される土砂災害情報に注意しましょう。雨の降り方についても注意し、危険を感じた自主的に避難しましょう。最新の気象情報、浸水情報、避難情報、土砂災害情報、河川の水位情報等を収集しましょう。

非常持ち出し品の事前準備を

避難するときの荷物は必要最低限とし、事前に準備しておきましょう。

避難の呼びかけに注意を

危険が迫ったときには、市役所や消防団から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。

■ 避難行動

避難行動は、安全の確保を第一に考えて行いましょう。
避難場所へ移動（水平避難）する際は、避難場所までの避難路の安全を確認し、雨の降り方等の気象状況に注意して避難しましょう。
また夜間（日没後）及び避難する時間が取れない場合は、垂直避難という選択肢もあります。
夜間や浸水が始まった場合は、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことを検討してください。

避難時の心得

■ 避難時は慌てずに、十分注意して避難しましょう

正確な情報収集と自主的避難を

テレビ・ラジオで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

非常持ち出し品の事前準備を

避難するときの荷物は必要最低限とし、事前に準備しておきましょう。

避難の前に

避難する前に、電気・ガスなどの火元を消しましょう。また、親戚や知人に避難する旨を連絡しておきましょう。

動きやすい格好、2人以上での避難を

避難するときは、動きやすい格好で、2人以上での避難を心がけましょう。

お年寄りなどの避難に協力を

お年寄りや子供、病気の人などは、早めの避難が必要です。近所のお年寄りなどの避難に協力しましょう。

車での避難は避けて

車での避難は緊急車両の通行の妨げになります。また、交通渋滞を招き、浸水すると動けなくなりますので、特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。

水深が50cm以上なら歩くことは危険

水深がひざまで来ると歩くことが困難になります。水深が浅くても流れに勢いがある場合にはむやみに歩き回ることは危険です。

浸水箇所には注意して避難を

浸水箇所があった場合には長い棒を杖代わりにして、水路や側溝などがないか確認しながら、十分に注意して避難しましょう。

万が一、逃げるいとまがないときには

万が一避難が遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。

■ 非常時持ち出し品リスト

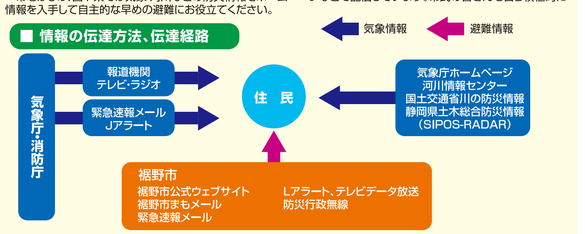
急いで避難しなければならない場合に備えて、非常持ち出し品を常備しておきましょう。取り出しやすい場所に置き、使用期限、消費期限も確認しましょう。

- □ 免許証、健康保険証、印鑑、預貯金通帳
- □ 救急医療品
- □ 缶切り、栓抜き、紙製食器
- □ 3日分の水
- □ 上着、下着などの衣類
- □ 予備のメガネ、コンタクトレンズ
- □ 3日分の食料
- □ 非常持ち出し袋
- □ 卓上コンロ、マッチ、ろうそく、ライター
- □ 懐中電灯、電池
- □ タオル、手袋、ポリ袋、ロープ
- □ メモ帳、筆記用具
- □ 現金、テレホンカード
- □ ティッシュ、生理用品
- □ 洗面用具、シャンプー
- □ 携帯電話、携帯ラジオ、戸別受信機
- □ 合羽、ヘルメット
- □ 紙おむつ、乳幼児の必要な物

情報の入手先

災害発生の危険性が高まっている時、または災害発生時には、市や消防、警察、報道機関などから流れる正しい情報を入手しましょう。
市をはじめ、国や県では気象・河川などの防災情報をホームページなどで配信しています。市民の皆さんも自ら積極的に情報を入手して自主的な早めの避難にお役立てください。

■ 情報の伝達方法、伝達経路



■ 情報収集

気象・防災情報

静岡県の地域密着型防災サイト

サイポスレーダー	Q検索	雨量等を調べる。

その他サイト

気象庁	Q検索	各種気象情報を調べる。
土砂災害警戒情報	Q検索	土砂災害に関する情報を調べる。
川の防災情報	Q検索	川の水位情報等を調べる。

●裾野市は避難情報をLアラートで届けています
災害時の避難の呼びかけや避難所開設の情報は、テレビリモコンのdボタンにより、データ放送の避難情報で確認できます。

●緊急情報メール配信サービス「裾野市まもメール」
登録方法　●QRコード®読み取り機能搭載の携帯端末の場合　左のQRコード®を読み取り、画面の指示に従って登録作業を進めてください。
●QRコード®読み取り機能無しの携帯端末または パソコンの場合　お持ちの携帯端末またはパソコンから裾野市公式ウェブサイトより登録画面にお進みください。
（裾野市公式ウェブサイト>くらし・手続き>防災・防犯・交通安全・消防>裾野市まもメール）
上記の操作後、登録案内メールが携帯端末又はパソコンに届けられますので、画面の指示に従ってください。

■ 土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報とは、大雨警報発表後も雨が降り続き、土砂災害発生の危険度が非常に高まったときに、静岡県と静岡地方気象台が共同で発表する防災情報です。
土砂災害警戒情報が発表されたときは「いつ土砂災害が起きてもおかしくない」という非常に危険な状態です。

土砂災害警戒情報が発表されたら

- 危険箇所（山やがけ、斜面等）からすぐに離れましょう。
- 市が発表する避難の呼びかけに注意しましょう。
- 周囲の様子をよく観察し、前兆現象を見逃さないようにしましょう。
- 特に、自宅付近にがけなどがある場合は、早めの避難を心がけましょう。

お問い合わせ先　裾野市 環境市民部 危機管理課　電話：055-995-1817